

2009年度 日本経済史研究所報

第13号

1. 研 究 活 動
2. 出 版 活 動
3. 黒 正 塾
4. 経 済 史 文 献 解 題 データベース
5. 展 示 活 動
6. 広 報 活 動
7. 史 資 料 の 収 集
8. 開 催 会 議
9. 人 事
10. 所 員 の 動 向
11. 施 設
12. 2010 年 度 事 業 計 画
13. 日本経済史研究所規程



【第5回日本経済史研究会】
シンポジウム「上海 近代のあゆみ」記念講演者・周 武 氏

2010 年 8 月

大阪経済大学日本経済史研究所

所長あいさつ

さらに開かれた経済史研究をめざして

日本経済史研究所所長 山本 正

私ども日本経済史研究所は、狭義の日本経済史にとどまることなく、さらに開かれた経済史研究を目指しています。すなわち、ジャンルのには経営史、政治史、社会史、文化史等を包摂し、空間的には日本を越え、世界とりわけ東アジアをカバーする経済史研究です。それに向けて本研究所が行ってきた、また現在行っている事業を紹介させていただきます。

まずは、オープン・リサーチ・センター整備事業（国際的な経済史・経営史研究の文献解題のデータベース化による世界発信）です。研究所開所 70 周年を記念して 2003 年度に開始したこの事業が 5 年の歳月をかけて完成しました。この間、2005 年には日本語版データベースの、2008 年 4 月には国際（英語）版データベースのインターネット公開を実現しています。また日本語版に関しては、現時点で、1951 年（『経済史年鑑復刊第一冊（昭和 26-28 年）』所収分）以降のデータをすべてインターネットで検索できるようになりました。このように、日本における研究情報をいままで以上に広く収集するだけでなく、世界とりわけ東アジアの研究情報を収集しデータベース化することができるようになったのです。ご支援・ご協力いただいた内外の多くの研究者ならびに研究機関には、あらためて心より御礼申し上げます。

国際的な研究交流の面では、2007 年 12 月に、韓国と中国ならびに本学を含む日本の 6 大学から多くの研究者が集った国際シンポジウム（第 1 回「東アジア経済史研究会」）での研究報告を集大成した叢書を本年刊行しました。また、昨年（2009 年）6 月には、上海社会科学院歴史研究所研究員・教授の周 武氏を迎えて、本研究所所員・研究員によるシンポジウム「上海 近代のあゆみ～日本との関わりを中心に～」を開催しました。

本学図書館が所蔵する「杉田定一関係文書」一文書のすべてではありませんが、本学図書館のホームページから WEB でご覧いただくことができます—については、2007 年 3 月に『目録』を刊行しましたが、その後研究員を中心に『杉田定一関係文書史料集』の編纂が進められ、昨年度（2009 年度）には第 1 巻が刊行されました。現在は第 2 巻の編纂に取り掛かっています。

本研究所では 1997 年度より雑誌『経済史研究』を復刊しましたが、2008 年度より本誌への投稿の門戸も開きました。購読者であれば誰でも投稿できるようにしたのです。そのために、これまでの編集委員に加えて、他分野にわたる研究者の方々に新たに参加していただいて編集委員会を強化し、投稿論文審査体制を整えることができるようになりました。本誌が若手をはじめ多くの研究者にとって重要な研究発表メディアとなることを願っています。

日本経済史研究所が、日本はいうまでもなく、世界の中で、とりわけ東アジアのなかで不可

欠な役割を果たすよう努力する所存です。今後とも皆様のご支援、ご協力を心からお願い申し上げます。

（2010 年）



2009年度の活動経過

1. 研 究 活 動

■ 経済史研究会 14:00～17:00

第54回 2009年4月11日(土) 会場: 本学C65会議室 出席者 27名
書評 市川 文彦 関西学院大学大学院経済学研究科准教授
「1930年代フランス経済史再論ー竹岡敬温 著『世界恐慌期フランスの社会ー
経済 政治 ファシズム』(御茶の水書房、2007)を読むー」
著者コメント: 竹岡 敬温 大阪大学名誉教授
＜関西農業史研究会 共催＞

第55回 2009年6月6日(土) 会場: 本学C館31教室 出席者 180名
シンポジウム「上海 近代のあゆみー日本との関わりを中心にー」

記念講演 周 武 (中国 上海社会科学院歴史研究所研究員 教授)
テ ー マ 近代書籍交流史における上海と日本ー張元済の日本訪書を中心にー

シンポジウム(以下、報告者と報告テーマ)

- ・ 閻 立 (本学経済学部准教授・本研究所所員)
1860年代の上海と幕末日本
- ・ 熟 美保子 (関西大学非常勤講師・本研究所研究員)
上海の「私立学校」東洋学館をめぐって
- ・ 蕭 文嫻 (本学非常勤講師・本研究所研究員)
日中経済関係と横浜正金銀行上海支店(1893ー1911年)
- ・ 岩本 真一 (本学非常勤講師・本研究所研究員)
20世紀初頭の裁縫教育を取り巻く経済史的要因
ー上海の女学校授業科目をもとにー
- ・ 近藤 直美 (本学人間科学部准教授・本研究所所員)
1900年代以降の日本人の中国観の変遷について

司 会 本多 三郎 本学経済学部教授・本研究所所員



シンポジウム「上海 近代のあゆみ」記念講演・個別報告を終え
聴講者から寄せられた質問をふまえて活発に討論する報告者たち

第 56 回 2009 年 10 月 10 日（土） 会場：本学 C65 会議室 出席者 10 名
書 評 閻 立 著『清末中国の対日政策と日本語認識
一朝貢と条約のはざままで』東方書店、2009 年
評 者 茂木 敏夫 東京女子大学現代文化学部教授

第 57 回 2009 年 12 月 5 日（土） 会場：本学 C65 会議室 出席者 21 名
合評会 風呂 勉 著『第二次大戦日米英流通史序説』晃洋書房、2009 年
評 者 吉田秀明 大阪経済大学経済学部准教授
加藤 司 大阪市立大学大学院経営学研究科教授
小西一彦 追手門学院大学経営学部教授
講 演 石原武政 関西学院大学商学部教授
「日本の流通政策史」

■ 日本経済史研究会

第 13 回 2009 年 4 月 17 日（金） 会場：本学 E 館第 2 会議室 出席者 8 名
報告 坂本 優一郎 本学経済学部専任講師
「投資社会論の射程－18 世紀のイギリスから－」

第 14 回 2009 年 10 月 16 日（金） 会場：本学 C65 会議室 出席者 3 名
報告 大野あずさ 本学経済学部専任講師
「都市のアメリカ先住民コミュニティ
－第二次大戦後の汎インディアン・コミュニティ形成について－」

2. 出 版 活 動

■ 刊行物

(1) 研究叢書 第 17 冊

大阪経済大学日本経済史研究所編

『東アジア経済史研究 第 1 集

－中国・韓国・日本・琉球の交流－』

2010 年 2 月発行

4,000 円



(2) 史料叢書 第 8 冊

家近良樹・飯塚一幸編『杉田定一関係文書史料集』第 1 巻

2010 年 3 月発行 3,500 円

(3) 『経済史研究』第 13 号

2010 年 2 月発行 2,000 円

3. 黒 正 塾

■ 第6回 春季歴史講演会

応募総数 356 名

2009 年 5 月 30 日 (土)

出席者 249 名

会 場：本学C館 31 教室 14:00～16:00

講 師：田代 和生^{カズイ} 慶應義塾大学大学院文学研究科教授

テーマ：「鎖国」時代の日朝貿易—銀の路・絹の路—

■ 第11回 寺子屋「史料が語る経済史」

応募総数 378 名

共通テーマ：「1930 年代世界恐慌をふりかえって」

会 場：本学C館 31 教室 14:00～16:00

2009 年 7 月 11 日 (土)

出席者 199 名

講 師：竹岡 敬温 大阪大学名誉教授

テーマ：「世界恐慌と経済政策—とくにフランスの場合—」

2009 年 7 月 18 日 (土)

出席者 194 名

講 師：秋吉 史夫 本学経済学部専任講師

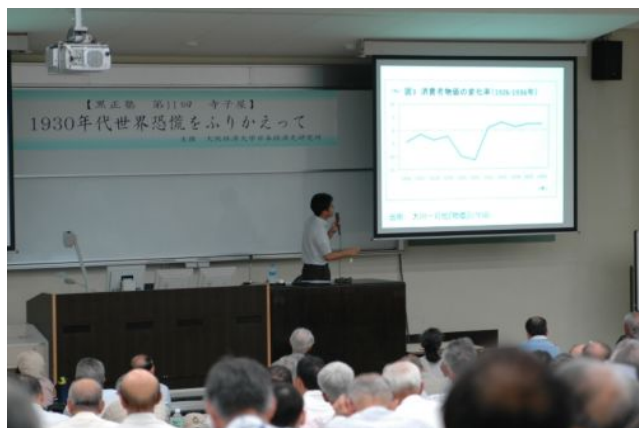
テーマ：「昭和恐慌下の日本経済」

2009 年 7 月 25 日 (土)

出席者 160 名

講 師：西川 純子 獨協大学名誉教授

テーマ：「自由と規制—1930 年代恐慌から何を学ぶか—」



寺子屋 (7 月 18 日) 講師・秋吉史夫

■ 第 6 回 秋季学術講演会

会 場 : 本学 C 館 31 教室

応募総数 255 名

2009 年 11 月 14 日 (土) 14:00~16:00

出席者 150 名

講 師: 南 直人 京都橘大学文学部教授

テーマ: 「食からみたヨーロッパ近代 ―ドイツを中心に―」

2009 年 11 月 21 日 (土) 14:00~16:00

出席者 175 名

講 師: 徳永 光俊 本学経済学部教授

テーマ: 「農業史から日本農業の未来を切り拓く
―風土と環境・農法と技術・現場と政治―」

4. 経済史文献解題データベース

1) 更新について

データ更新は年 1 回

2010 年 4 月から検索速度を向上

2) 採録件数

論文 81,357 件、図書 46,867 件 (2010 年 8 月現在)

(遡及版) 『経済史年鑑』復刊第一冊 (昭和 26-28 年) ~ 『経済史文献解題』2003 年版

(現行版) 『経済史文献解題』2004 年版~2008 年版

URL: <http://kaidai.osaka-ue.ac.jp/kaidai3/index.php>

URL(欧文版): http://kaidai.osaka-ue.ac.jp/kaidai3/index_e.php

3) 利用状況 (検索件数)

月	2009 年度
4	899
5	863
6	1227
7	616
8	315
9	478
10	341
11	195
12	332
1	393
2	830
3	5611

5. 展 示 活 動

◇「上海 写真展」

期 間：2009年6月6日（土）

会 場：本学 C館3階 ホワイエ



「上海 写真展」(2009年6月6日)

◇ギャラリー展示「上海 ～過去と現在～」

期 間：2009年10月23日（金）～11月6日（金）

会 場：本学 70周年記念館 KEIDAI ギャラリー

開館時間 9:00～18:00 <日曜・祝日は休館>

6. 広 報 活 動

(1) 新聞・雑誌掲載記事

◇ 講演会広告

①2009. 5. 19 日経新聞（夕）

②2009. 5. 19 朝日新聞（夕）

③2009. 5. 21 毎日新聞（夕）

④2009. 5. 21 産経新聞（夕）

(2) ホームページ <http://www2.osaka-ue.ac.jp/nikkeisi/>

3ヶ国語版ホームページ開設

英語版 http://www.osaka-ue.ac.jp/nikkeisi/3_lang/eng/

中国語版 http://www.osaka-ue.ac.jp/nikkeisi/3_lang/chi/index.html

韓国語版 http://www.osaka-ue.ac.jp/nikkeisi/3_lang/kor/index.html

7. 史資料の収集

【図書】

項目	資産性（和）	資産性（洋）	消耗性	寄贈	合計
冊数	622	9	127	845	1,603
金額	4,285,313	91,448	311,946	-	4,688,707

【雑誌】

項目	購入（19種）	寄贈（112種）	合計
冊数	136	235	371
金額	134,700	-	134,700

8. 開 催 会 議

◇第1回 運営委員・所員合同会議

日 時 2009年4月17日(金) 14:00～15:30

場 所 本研究所 共同研究室

議 題 (1) 2008年度の活動総括
(2) 2009年度の活動について
(3) 当面の取組み
(4) その他

◇第2回 運営委員・所員合同会議

日 時 2009年5月29日(金) 11:00～12:30

場 所 本研究所 共同研究室

議 題 (1) 2009～2010年度の体制
(2) 2009年度後半の活動について
(3) 教授会報告
 a. 第7回 春季歴史講演会
 b. シンポジウム「上海 近代のあゆみ」
(4) その他

◇第3回 運営委員・所員合同会議

日 時 2009年10月16日(金) 13:32～15:12

場 所 本研究所 共同研究室

議 題 (1) 5月29日(前回)以降の活動報告
(2) 2009年度後半の活動予定
(3) 2010年度予算要求について
(4) その他

◇第4回 運営委員会・所員合同会議

日 時 2010年3月12日(金) 10:30～12:09

場 所 本研究所 共同研究室

議 題 (1) 2009年度の活動総括
(2) 2010年度の活動計画と予算
(3) 経大80周年記念事業について
(4) その他

■ 『経済史研究』編集委員会

第12回 2009年4月11日(土) 12:00～13:50

出席者9名

会場 本学C館 C63会議室

議長 本多 三郎 本研究所所長・編集委員長

第13回 2009年7月25日(土) 12:05～13:18

出席者5名

会場 本学C館 C65会議室

議長 山本 正 本研究所所長・編集委員長

9. 人 事（2010年5月1日付）

所 長 山本 正（経済学部）

運 営 委 員 家近 良樹（経済学部） 山田 文明（経営学部）
伊藤 博志（経営情報学部） 平等 文博（人間科学部）
三宅 律子（事務室）

所 員 家近 良樹（経済学部） 閻 立（経済学部）
大野あずさ（経済学部） 楠葉 隆徳（経済学部）
近藤 直美（人間科学部） 坂本優一郎（経済学部）
徳永 光俊（経済学部） 西山 豊（経営情報学部）
藤本 高志（経済学部） 山本 正（経済学部）
吉田建一郎（経済学部） 吉田 秀明（経済学部）

特別研究所員 秀村 選三 九州大学名誉教授
原田 敏丸 大阪大学名誉教授
安岡 重明 同志社大学名誉教授
藤本 隆士 福岡大学名誉教授
竹岡 敬温 大阪大学名誉教授・大阪学院大学名誉教授
松下 志朗 九州大学名誉教授
藤田貞一郎 同志社大学名誉教授
岡本 幸雄 西南学院大学名誉教授
山本 有造 中部大学人文学部教授・京都大学名誉教授
宮本 又郎 関西学院大学大学院経営戦略研究科教授・
大阪大学名誉教授
荻野 喜弘 九州産業大学商学部教授・九州大学名誉教授
山田 達夫 大阪経済大学名誉教授
本多 三郎 大阪経済大学名誉教授
三上 敦史 大阪学院大学経済学部教授
水原 正亨 大阪学院大学経済学部教授
瀬岡 誠 大阪学院大学経営学部教授
石川健次郎 同志社大学商学部教授
渡邊 忠司 佛教大学文学部教授
山田 秀 九州産業大学商学部教授
野田 公夫 京都大学大学院農学研究科教授
天野 雅敏 神戸大学大学院経済学研究科教授
大島真理夫 大阪市立大学大学院経済学研究科教授
西村 卓 同志社大学経済学部教授
上村 雅洋 和歌山大学経済学部教授
宇佐美英機 滋賀大学経済学部教授
阿部 武司 大阪大学大学院経済学研究科教授
江藤 彰彦 久留米大学経済学部教授
今野 孝 福岡大学商学部教授
澤井 実 大阪大学大学院経済学研究科教授
柴 孝夫 京都産業大学経営学部教授
脇村 孝平 大阪市立大学大学院経済学研究科教授
西牟田祐二 京都大学大学院経済学研究科教授
真栄平房昭 神戸女学院大学総合文化学科教授

三輪	宗弘	九州大学教授附属図書館記録資料館産業経済資料部門
飯塚	一幸	大阪大学大学院文学研究科教授
友部	謙一	大阪大学大学院経済学研究科教授
原	康記	九州産業大学商学部教授
武井	章弘	大阪学院大学経済学部教授
廣田	誠	大阪大学大学院経済学研究科教授
木山	実	関西学院大学商学部教授
足立	芳宏	京都大学大学院農学研究科准教授
稲葉	和也	山口大学大学院技術経営研究科教授
渡邊	純子	京都大学大学院経済学研究科准教授
松村	隆	大阪学院大学国際学部准教授
鳩澤	歩	大阪大学大学院経済学研究科准教授
島田	竜登	西南学院大学経済学部准教授
北澤	満	九州大学大学院経済学研究院准教授
豊田	太郎	札幌大学経営学部准教授
河崎	信樹	関西大学政策創造学部准教授
宮地	英敏	九州大学准教授附属図書館記録資料館産業経済資料部門
水原	紹	大阪学院大学経営学部准教授
伊藤	昭弘	佐賀大学地域学歴史文化センター准教授
崎浜	靖	沖縄国際大学総合文化学部准教授・南島文化研究所専任所員
三浦	壮	鹿児島大学法文学部経済情報学科准教授
鷺崎俊	太郎	九州大学大学院経済学院准教授
福岡	正章	同志社大学経済学部専任講師
本村	希代	福岡大学商学部専任講師
川満	直樹	同志社大学商学部専任講師
伊藤	淳史	京都大学大学院農学研究科助教
梶嶋	政司	九州大学助教附属図書館記録資料館九州文化史資料部門
田原	啓祐	(株) トータルメディア開発研究所資料調査責任者・ 龍谷大学非常勤講師・本学非常勤講師
山口	信枝	福岡県地域史研究所研究員
漢那	敬子	(財) 沖縄文化振興会史料編集室
藤本	俊史	福岡大学研究推進部大学史料室
後藤	正明	福岡大学研究推進部大学史料室
乾	秀明	小樽市立北山中学校教頭
諸原	真樹	福岡大学商学部非常勤講師
奥田	以在	同志社大学大学院経済学研究科
小西	浩太	同志社大学大学院商学研究科
鍛冶	博之	同志社大学大学院商学研究科
大瀧	真俊	京都大学大学院農学研究科
千田	真也	京都大学大学院農学研究科
本西	孝収	神戸大学大学院経済学研究科

研 究 員	徳成外志子	本学非常勤講師
	蕭 文嫻	本学非常勤講師
	梁 炫玉	本学非常勤講師
	岩本 真一	本学非常勤講師
	二宮 美鈴	茨木市役所臨時職員 (史料調査員)・箕面市史料調査員
	熟 美保子	関西大学非常勤講師

『経済史研究』	三輪 宗弘 (九州大学)	今野 孝 (福岡大学)
編 集 委 員	江藤 彰彦 (久留米大学)	天野 雅敏 (神戸大学)
	阿部 武司 (大阪大学)	大島真理夫 (大阪市立大学)
	脇村 孝平 (大阪市立大学)	三上 敦史 (大阪学院大学)
	西牟田祐二 (京都大学)	野田 公夫 (京都大学)
	渡邊 純子 (京都大学)	柴 孝夫 (京都産業大学)
	石川健次郎 (同志社大学)	渡邊 忠司 (佛教大学)
	家近 良樹 (本学)	楠葉 隆徳 (本学)
	徳永 光俊 (本学)	藤本 高志 (本学)
	山本 正 (本学)	吉田 秀明 (本学)
	閻 立 (本学)	坂本優一郎 (本学)
	吉田建一郎 (本学)	三宅 律子 (本研究所事務室)

事 務 室 三宅 律子 ・ 岸田 祐和 ・ 法貴 義弘
井上 愛理 ・ 田中 智子 ・ 平野 早苗

10. 所員の動向

● 山本 正

昨年の5月に、本多三郎前所長の後任として所長に就任しました。それから一年、みなさまのご支援・ご協力のもと、なんとか所長職をこなしています。研究の方にはなかなか時間を割くことができませんが、次のようなパースペクティブを持ちながら研究を続けていきたいと思っています。わたしの専門は国制史・政治史的観点からのアイルランド史研究ですが、近世・近代のブリテン帝国のなかでアイルランドが占めるポジションはユニークです。アイルランドはイングランドあるいはブリテンに対しては植民地として辺境に位置づけられますが、17世紀半ばころを起点に、北米へ、あるいはアジア、オセアニアへとグローバルな拡大を遂げていったブリテン帝国の全体の中では、アイルランドはむしろ連合王国(UK)の一部として、中心にも位置づけることもできましょう。こうしたユニークでアンビヴァレントなポジションを占めたアイルランドの史的研究を通じて、ブリテン帝国というまことに複雑でとらえどころのない近代帝国の構造、システムの解明に迫るといふ、パースペクティブ(大風呂敷というべきかもしれません)です。

● 家近 良樹

今年(2010年)の3月に、飯塚一幸氏との共編という形で『杉田定一関係文書史料集』第1巻を出版しました。その後は、来年出版する予定の学術書の原稿をコツコツと書き進めています。これは、西郷隆盛の動向を中心に据えて、幕末維新期の政治的動向を振り返ろうとするものです。もっとも、その一環として本学の紀要に論考を掲載したところ、編集者の目にとまり、ある雑誌に薩長盟約(同盟)について書くことになりました。本年の9月に出る予定です。もしよろしければ見て下さい。

● 閻 立

上海万博の関係で私は上海への関心を高めている。いままで幕末藩士の上海派遣について研究を行ってきたが、現在は少し変えて、地方官僚（上海道台）を研究対象とし、1860年代～日清戦争までの彼らの日清関係についての認識を系統的に研究している。

そして7月に本研究所主催の第12回寺子屋にて「近代東アジアの国際秩序と『韓国併合』」というテーマで講演する。その準備のために朝鮮近代史を勉強している。百年前の東アジアの国際秩序と今日の「東アジア共同体」構想との関連性を考えていると、歴史は「現在と過去との対話」だとつくづく感じる。

● 大野 あずさ

・研究目的

アメリカ先住民の現代史、その中でも特に都市に住むアメリカ先住民の歴史がテーマである。方法論としては、従来の征服者（植民者・ヨーロッパ系移民など）によって残されてきた史料を利用するだけでなく、インタビューやフィールドワークも行うことにより、これまで「被害者」・「他者」と見なされてきた先住民自身の声をより強く反映した研究を行いたい。

・今後の研究計画

2010年度は特にアメリカ先住民を人種的マイノリティとして捉えるだけでなく、アメリカの格差社会における社会的・経済的弱者として捉えなおすことを試みる。この捉えなおしによって、昨年度より注目してきた都市にアメリカ先住民と他の民族集団との関係性についても新たな発見があるのではないかと考える。

また、アメリカ先住民だけでなく、世界のさまざまな先住民族やマイノリティにも注目した調査・研究を実施したい。グアテマラのマヤ、日本のアイヌや沖縄人、ニュージーランドのマオリ等がそれらの集団の一例である。特に、マオリについては夏期に現地調査を実施する予定である。諸マイノリティ集団の歴史と現状、支配国の人種政策などを比較検討することによって、アメリカ先住民の経験の特異性ならびに諸民族集団との類似点を発見できるのではないかと考える。

研究成果の発表の場は従来の日本語及び英語による学会発表や論文執筆を引き続き行いつつ、博士論文の出版に向けた作業も開始したい。また、研究成果の発表の場を広げる目的で、一般市民向けの書籍執筆にも取り組んでいる。具体的には、米国ジャーナリストによる先住民女性への聞き語りの翻訳、先住民に関する百科事典の項目執筆を開始した。こういった作業を通じて、一般市民の間での先住民に対する理解を深めていきたいと考えている。

● 楠葉 隆徳

ポストドクで日本に来ていた Nathan Sidoli 氏と書いた論文が受理されました。共著者のトロント大学大学院の指導教授は、私が 1982 年からアメリカのブラウン大学に留学したとき 3 年間同じ研究室を使っていた友人です。若い人と 2009 年の初めにスペインのバルセロナで出版することができました。

2002 年インド人の Sarma さんが京都大学に半学期滞在したときに 4 人で始めた世俗語の算術書の校訂を SaKHYa の名前で本を出版しました。SaKHYa とはこの仕事をした 4 人の頭文字を合わせたもので、サンスクリットで友を意味します。インド人が買えるようにとインドの出版社で出しました。定価は 995 ルピーです。

この本とほとんど同じところに私の論文が載った論文集がローマで出版されました。私のブラウン大学の指導教授 Pingree 先生が亡くなったのが 2005 年の秋で、その翌年メモリアルセミナーがオランダのライデンでありました。そのときのものです。

9 月に国際サンスクリット学会が京都で開かれました。この種の学会に出席したことはありません。分野も違うのですが、要請されたので発表しました。それが終わるとモントリオールのイスラーム研究所を訪ねました。あいにくラマダーンだったので、昼はお茶もださないと旧知の友人が言っていました。

Pingree 先生と 2002 年にライデンの Brill 社から出版した共著がペルシア語訳されました。著者である私にも出版社にもなんの連絡もありませんでした。この話しをバンクーバーの友人にすると、自分の本も許可無くペルシア語訳されたと言っていました。それだったらいいかなと思っています。

● 近藤 直美

- ・ 1900 年代以降の日本人の中国観の変遷について

1900 年代以降、中国についての日本人の記述からその変遷をたどり、考察することを目的としている。

明治以降の「書かれたもの」と「読まれかた」との関係を探っていく。まず文学者の旅行記、小説などがそれにあたる。これらの文章は基本的に日本国内で日本人に読まれることを目的としている。読者がどのようにそれを読んだのかは、それ以降の記述に投影される。いわゆる支那通の言説、中国在日本人の記録、などにその影響と同時に読者が果たした役割を探りたい。

さらには日本人の書いたものへの中国人、その他の人々の見方も考察することも視野に入れたい。

その上で、「書かれたもの」によって作られたイメージ、さらにそのイメージの上に作られていく像が、どのようにつながり、人々のイメージ形成に影響を与えているかを考察し、日本人の中国観の変遷と、その理由、さらにその変遷による影響を考えたい。日本の中には明治期からの中国像が根強く残り、それが新しい中国像と混在することで、その時々中国像を作っていく。その流れをたどっていくことで、「作られた」中国観とその問題点を考察したい。1900 年代から 1930 年代頃の「書かれたもの」と「読まれかた」から、その一端を明らかにし、少しでも現在の相互理解に役立つ材料になればよいと考えている。

● 坂本 優一郎

個人研究と並行して学外の三つの共同研究に参加している。

個人研究については、科研費「近代イギリスにおける社会的インフラストラクチャの整備と『投資社会』」での研究が最終年度をむかえたので、これまで実証研究をすすめてきた 18 世紀末から 19 世紀初頭までのインフラ整備における起債例について、研究成果の刊行を予定している。同時に、次年度の研究テーマ「投資と福祉」について、文献蒐集などの予備的な作業を開始する。

共同研究については、京大人文研での共同研究班「第一次世界大戦の総合的研究」、「古典のなかのアジア史」、「啓蒙とフランス革命」にそれぞれ、「投資社会」形成についての日英比較史・関係史、大塚久雄『株式会社発生史論』のコンテキスト、信用と政治哲学を研究テーマとして班員として参加している。

● 徳永 光俊

「日本農学原論を構築するための大正・昭和期における日本農学史の実証的研究」（科学研究費補助金基盤（C）（2008～2010））にもとづき、戦前期の日本農学論や農本主義に関する史料・書籍の収集に努め、研究史の整理、農家からの聞き取り調査を行っています。

明治鍼灸国際大学の渡邊勝之氏と 2010 年 4 月に、東洋医学、心理学、教育学、農学の研究者、実践家を集めて、「プロジェクト・いのち」を立ち上げ、「いのち」を軸に共同研究を行っています。私自身は、「いのちの日本農学原論」の構築をめざしています。

8 月には北京の中国科学院自然科学史研究所で、9 月にはルーマニアで開かれる国際農業博物館会議で、東アジア・日本農法史について報告する予定です。そして、『大阪経大論集』に研究ノート連載しながら、今まで書き溜めたものも含めて、2010 年度中に日本農法史、日本農学原論に関して 1 冊にまとめる予定です。

● 西山 豊

前回も報告しましたが、この約 30 年間に発表してきた論考や記事を英語翻訳して世界中に情報発信することを目指しています。2009 年度は『大阪経大論集』に英語論文が 6 点（通算 17 点）、外国雑誌 International Journal of Pure and Applied Mathematics (IJPAM) に英語論文が 3 点あります。また、英語での著書を実現するため海外出版社に打診した結果、アメリカの出版社 International Press of Boston から返事が 2008 年 10 月にあり、Mathematics in Daily Life というタイトルで出版するということでしたが、世界同時不況のあおりで出版が遅れています。

新しいテーマでの研究では、『理系への数学』（現代数学社）に 5 点、その他『数学セミナー』（日本評論社）に 2 点あります。ブーメランの普及については日本ブーメラン協会名誉理事でもありますので、リスーピア（パナソニック東京）での講習会や、国立科学博物館の広報誌『Milsil（ミルシル）』の記事の監修などを担当しました。活動自体は地味ですが、いつも新しいテーマにチャレンジしていきたいと思っています。

● 藤本 高志

日本の食料自給率は40%へと低下しました。これは、先進国の中では最低水準です。また、最近では、BSEなど食に関連する事件がマスコミを賑わせることが多くなりました。このような中で、日本の市民は食料の自給と安全性の改善の必要性を感じるようになりました。

現在の私の研究活動の中心は、食料自給率に関する研究です。日本を含む東アジアを対象に、人口、食生活、農林水産業の競争力など食料自給率を変化させる要因を定量的分析し、食料自給率の将来予測を行います。そして、自給率の変化が、土地や水など資源利用に及ぼす影響、窒素やCO₂排出など環境に及ぼす影響、エネルギー消費に及ぼす影響を定量的に評価します。

また、飼料用稲を基軸とする耕畜連携システム確立や、水田放牧システムの確立など、耕作放棄や遊休化が進む水田を活用し、食料自給率を向上すると同時に、水田を保全しようとするプロジェクトに参加しています。

● 吉田 建一郎(2010年度より本学経済学部専任講師)

現在の中心的な研究課題は、19・20世紀の中国で、タマゴ、皮革、獣骨を中心とした畜産品の貿易がどのように展開したのかを明らかにすることです。これを通して、近現代中国の貿易史、産業史、企業史などの先行研究に新たな知見を示すことを目指しています。また、近現代の中国経済が、世界とどのような関係を築きながら発展したのかということについて考察を深めたいと考えています。

今年度、重点的に取り組む研究内容は以下の4点です。

- (1) 慶應義塾大学東アジア研究所のプロジェクト「近代中国の地域像」(代表：慶應義塾大学文学部教授 山本英史)での成果として、第一次大戦前後の青島における獣骨貿易の実態、天津との比較から見える近代青島の貿易の特徴、近代山東経済史の時期区分について言及した論稿をまとめる。
- (2) 研究分担者として参加している平成19～22年度科研費補助金研究「両大戦間期・第二次大戦期の中国における在華日本系企業の活動」(代表：島根大学教育学部准教授 富澤芳亜)での成果として、1920年に大連を本社として開業した満蒙殖産株式会社の創設までの経緯と1920年代の経営状況をまとめた論稿を作成する。本研究所第15回日本経済史研究会で行った報告と討論の成果を取り入れられるよう努めたい。
- (3) 研究協力者として参加している平成20～23年度科研費補助金研究「解放前後、太湖流域農漁村の「郷土社会」とフィールドワーク」(代表：兵庫県立大学経済学部准教授 太田出)で行ってきた江南農村での聞き取り調査の整理を進める。また中華人民共和国成立前後の江南における家畜や肥料の利用に関する資料の収集、分析を進める。
- (4) 戦前・戦中期に日本人が刊行した中国経済の実態に関する資料について、収集、整理、分析を進める。特に大阪市が刊行した『支那貿易通報』『東洋貿易研究』『東洋貿易時報』に焦点をあてたい。

● 吉田 秀明

DRAMを中心とした半導体産業の動向と、そこでの日本企業を取り巻く環境について調査・研究しています。

このテーマをさらに深めると同時に、近接産業分野である太陽電池製造業の最近の動向についても調査する計画です。

太陽電池の分野でも、半導体同様に、中国・台湾・韓国の企業が参入し、日本企業を上回る大規模投資を計画しています。急速な価格低下や日本企業の後退が、この分野でも繰り返されるのか？というのが目下の関心事です。

1 1. 施 設

所在場所 G館1階・地下室
使用室名 所長室、共同研究室、古文書室、
事務室、書庫（地下室）
使用面積 197.76m²
所 長 室 （19.76m²）

共同研究室 （39.66m²）
古 文 書 室 （30.28m²）
事 務 室
（黒正巖博士展示ホールを含む）
（108.06m²）



1 2. 2010年度事業計画

研 究 活 動

■ 経済史研究会

第58回 2010年4月10日（土） 会場：本学C65会議室 出席者9名
報告 西牟田祐二 京都大学大学院経済学研究科教授
「世界恐慌期の債務再交渉—1933-34年ベルリン債務会議を中心に—」

第59回 2010年6月12日（土） 会場：本学C65会議室 出席者25名
書評 勘坂純市 創価大学経済学部教授
籠谷直人 京都大学人文科学研究所教授

大島真理夫編著『土地希少化と勤勉革命の比較史—経済史上の近世—』
（ミネルヴァ書房、2009年）

第60回 2010年10月9日（土） 会場：未定
【詳細は未定】

第61回 2010年12月11日（土） 会場：未定
テーマ 日本と台湾（仮）
報告者 高 淑媛 国立成功大学歴史学系 副教授
陳 文松 国立成功大学歴史学系 助理教授

■ 日本経済史研究会

第15回 2010年5月7日（金） 会場：本学E館 第1会議室 出席者 11名
報告 吉田 建一郎 本学経済学部講師
「満蒙殖産株式会社の形成と発展」

■ 黒正塾 第8回 春季歴史講演会

応募総数 327 名

2009 年 5 月 30 日 (土)

出席者 200 名

会 場：本学C館 31 教室 14:00～16:00

講 師：大島真理夫 大阪市立大学大学院経済学研究科教授

テーマ：「経済史における勤勉革命論の射程—地域の個性把握の方法—」

■ 黒正塾 第12回 寺子屋

応募総数 424 名

当選者 364 名

共通テーマ：「近代東アジアの国際情勢と「韓国併合」—併合100周年を機に考える—」

会 場：本学C館 31 教室 14:00～16:00

2010 年 7 月 10 日 (土)

出席者 218 名

講 師：閻 立 本学経済学部准教授

テーマ：「近代東アジアの国際秩序と「韓国併合」」

2010 年 7 月 17 日 (土)

出席者 213 名

講 師：金 鳳珍 北九州市立大学教授

テーマ：「韓国から見た「韓国併合」」

2010 年 7 月 24 日 (土)

出席者 197 名

講 師：月脚達彦 東京大学大学院准教授

テーマ：「日本から見た「韓国併合」」

■ 黒正塾 第8回 秋季学術講演会

会場：本学C館 31 教室

2010 年 11 月 13 日 (土)

講 師：原 武史 明治学院大学国際学部教授

テーマ：「私鉄と住宅」

2010 年 11 月 20 日 (土)

講 師：片山邦雄 大阪学院大学国際学部教授

テーマ：「明治期の日本外航海運—アジアを中心として—」

出 版 活 動

◇『経済史研究』第14号

2010 年 12 月刊行予定

◇ 研究叢書 第18冊

2010 年 12 月刊行予定

1 3. 日本経済史研究所規程

(名称)

第1条 「大阪経済大学学則」第57条に基づき、大阪経済大学（以下「本学」という）に大阪経済大学日本経済史研究所(Institute for Research in Economic History of Japan、Osaka University of Economics)(以下「研究所」という)を置く。

(目的)

第2条 研究所は日本経済史に関する研究・調査および編纂を行い、経済史学の向上発展に寄与することを目的とする。

(事業)

第3条 研究所は次の事業を行う。

- (1) 経済史・経営史に関する研究・調査および編纂
- (2) 研究・調査の成果の発表および刊行
- (3) 刊行物の継続的公刊
- (4) 研究・調査に必要な図書・資料等の収集・整理・保管
- (5) 研究会、講演会、展示会等の開催
- (6) 国内外の大学および研究機関との交流
- (7) 公共機関、民間団体その他の依頼による研究・調査の受託
- (8) その他研究所の目的を達成するために必要な事業

(構成員)

第4条 研究所に次の構成員を置く。

- (1) 所 長 1名
- (2) 運営委員 5名
- (3) 研究所員
- (4) 特別研究所員
- (5) 研究員
- (6) 事務職員
- (7) 『経済史研究』購読会員

(所長)

第5条 所長は研究所の事業を統括するとともに組織・運営に関する全般的な責任を負う。

- 2 所長は運営委員の意見を聴いた上で学長が指名する。
- 3 所長の任期は2年とする。ただし重任は妨げない。

(運営委員)

第6条 運営委員は各学部（経済学部、経営学部、経営情報学部、人間科学部）から各1名を選出する。ただし研究所員との兼任ならびに学部長の兼務を妨げない。

- 2 事務職員の責任者は職務上運営委員となる。
- 3 運営委員は、所長の諮問に応じて研究所の事務円滑を図る。
- 4 運営委員の任期は2年とする。ただし重任を妨げない。

(運営委員会)

第7条 研究所に運営委員会を置き、所長および運営委員をもって構成する。

- 2 運営委員会は所長が招集し議長となる。
- 3 運営委員会は所長の諮問に応じ、研究所の組織・運営に関する事項を審議する。

(研究所員)

第8条 研究所員は、本学専任教員で研究所の目的に沿った研究・調査を希望し、かつ研究所の継続事業に協力できる者を所長が委嘱する。

- 2 研究所員は、所定の課題に関する研究および調査を行い、その成果を任期内に研究所の刊行物として公刊しなければならない。
- 3 研究所員の任期は2年とする。ただし重任を妨げない。

(研究所員会)

第9条 研究所に研究所員会を置き、所長および研究所員をもって構成する。

- 2 研究所員会は所長が招集し議長となる。
- 3 研究所員会は所長の諮問に応じ、第3条に掲げる事業を行うために必要な事項を審議する。

(運営委員会と研究所員会との合同会議)

第10条 所長は必要に応じて運営委員会と研究所員会との合同会議を招集することができる。

(特別研究所員)

第 11 条 研究所は、本学専任教員以外で、研究所の事業を遂行するために必要とする者を特別研究所員として委嘱することができる。

- 2 特別研究所員は委嘱された業務以外に従事することはできない。
- 3 特別研究所員は運営委員、研究所員の意見を聴いた上で所長が委嘱する。
- 4 特別研究所員の任期は委嘱業務に必要な期間とする。

(研究員)

第 12 条 研究所はその事業に協力する者を研究員として委嘱することができる。

- 2 研究員は委嘱された業務以外に従事することはできない。
- 3 研究員は運営委員、研究所員の意見を聴いた上で所長が委嘱する。
- 4 研究員の任期は委嘱業務に必要な期間とする。

(事務職員)

第 13 条 事務職員は所長の命を受け研究所の事務を処理する。

- 2 業務分掌については別に定める。

(『経済史研究』購読会員)

第 14 条 『経済史研究』を直接研究所より購読する者を購読会員とする。

(改廃)

第 15 条 この規程の改廃は、運営委員会の議を経て各教授会の承認を得なければならない。

附 則

- 1 この規程は、平成元年 3 月 16 日に制定し、同日から施行する。
- 2 この規程第 4 条(2)、第 6 条は 1997 年 3 月 11 日に改正し、1997 年 4 月 1 日から施行する。
- 3 この規程は 1999 年 1 月 22 日に改正し、同日から施行する。
- 4 この規程は 2002 年 4 月 1 日に改正し、同日から施行する。
- 5 この規程は 2007 年 2 月 13 日に改正し、2007 年 4 月 1 日から施行する。
- 6 この規程は 2007 年 10 月 26 日に改正し、施行する。